

□平成 25 年度自然史博物館活動の評価について

(群馬県立自然史博物館専門委員 矢島 亮一)

群馬県立自然史博物館の評価委員として職員より説明を受け、25年度の外部評価をさせていただきました。

本館は、多くの展示物を保持し全体的にバランスのとれた博物館であり、博物館としての役割も十分に果たしていると感じました。

昨今の予算削減の折、展示物の維持管理をするだけでも大変であるという現状の中、特に感心したことは学芸員の企画展示と常設展示の設営に際して、来場者を楽しませるための努力と情熱です。

日本における博物館のあり方は、博物館自体の展示物だけで、集客し楽しませるかに尽きるように感じますが、欧米諸国との比較になると我が国は、発展途上のような気がしました。

私がコメントさせていただいたのは、以下の2点です。

- ① 「エコミュージアム※」の概念を取り入れ富岡市として、群馬県として群馬県立博物館を盛り上げていく必要があること。
- ② 博物館だけでなく周りには公園等、充実した自然環境と施設があるものの、残念な点は、観光を兼ねた場合、2～3時間の通過点でしかなく、長時間滞在するには物足りない部分があること。例えば、博物館内での食事場所、アクセスを含めた移動方法、博物館付近の食事場所、滞在を考えた場合の宿泊施設等、地域と連携した博物館を核とした地域づくりを描いていくこと。さらに世界遺産となった富岡製糸場との連携も十分考えられる地域としてしっかり取り組んでいただきたいこと。

今回の博物館活動の評価方法が十分なものだとは言えませんが、地域づくりの視点を含めた、より明確なミッションの策定と歴史的価値あるものをきちんと次世代に残し、過去と未来の懸け橋となることを期待しています。

---

※ エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）とをつなぎ合わせた造語で、ある一定の地域において、住民の参加によって、その地域で受け継がれてきた自然や文化、生活様式を含めた環境を、総体として永続的な（持続可能な）方法で研究・保存・展示・活用していくという考え方、またその実践である。

(平成 26 年 11 月)